

洪沢栄一翁

令和5年11月28日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

洪沢氏を始祖とする、日本経済は、その勤労性を求める高い倫理的自己要求を得る、一つの現実を与えたものである。しかし今日技術革新は、経済の新たな環境を与え、自由経済システムは、新たな現実を求めるものである。

これらは、故松下幸之助氏が、唯一世界との対等な経営者であることを指摘したい。大阪という風土に自己を得る氏は、その創意工夫において、現代に比する、業績を上げられたのである。

これらは優れた企業倫理性と創意工夫という、今日に最も要求される現実を過去において両氏は、与えられたのである。

これら両輪は、企業の飛躍を今日において与えられるものであり、最も要求されるものなのである。

優れた企業倫理性は未来を可能とし、創意工夫は未来を創造するものなのである。これらは世界のメジャーとの対等な自己構築を可能とするものである。

また土光委員会の故土光敏夫氏は、清廉潔白において、経営者と下の模範を与えられたものである。

これらは手本や目標を海外に求めなくても、理解に近いこれら現実は、今日においても、変わらない理想なのである。

これら企業が優れた自己を抱くことは、世界における現実への対等性を与えることができるのである。

今日の経済戦争に対する敗戦も、技術製品サービスにおける日本企業の内実は、決して負けたわけでないのである。これらは資本力における現実なのである。これら金融センターの構築を世界と対等に日本独自の判断とともに構築することを提案したい。